

氏 名	韓 美 蘭
学 位 の 専 攻 分 野 の 名 称	博 士（経済学）
学 位 記 番 号	甲経第39号（文部科学省への報告番号甲第349号）
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位授与年月日	2011年2月16日
学 位 論 文 題 目	<b>民族から見た中国労働市場 —吉林省における就業行動と労働力移動を中心に—</b>
論 文 審 査 委 員	（主査）教 授 伊 藤 正 一 （副査）教 授 井 口 泰 教 授 土 井 教 之 劉 徳 強（京都大学教授）

## 論文内容の要旨

改革開放以来、中国の急速な経済成長は、巨大な労働市場を生み出し、中国国内の労働者に多くの就業機会を与える一方、経済格差などの多くの経済・社会的矛盾を露呈させてきた。現在、中国では、都市部の失業問題として大学新卒者の「就職難」問題と農村から都市への移動による「農民工」問題が重要な課題である。本論文の特色は、大学生、農家、会社員、公務員、自営業など様々な労働市場参加者に対するアンケート調査を通じて、民族別に分けて、送り出し地域の視点から就業行動と労働力移動の決定要因を計量的に分析していることである。本論文の主な目的は、中国の地域と民族の労働市場に焦点を当て、経済格差の存在の下で、労働経済学の視点から中国労働市場における民族別就業行動と労働力移動のメカニズムを解明することである。

本論文の構成は、次のとおりである。

序章 研究の背景と研究の課題

第1章 中国の経済格差と労働力移動

第2章 人口・労働力移動に関する理論的枠組み

第3章 中国大学生の就業行動の決定要因—地方大学生のアンケート調査による分析

第4章 大学新卒者の就業行動及び省間移動の規定要因に関する実証分析

第5章 中国農村部労働力の民族別移動に関する一考察—吉林省の場合

第6章 中国都市部労働力の民族別移動とその決定要因—吉林省の漢族と少数民族の場合

第7章 中国における国際労働力移動と送金に関する一考察—吉林省の事例から

終章 要約と政策的含意

第1章では、2008年と2009年に実施したアンケート調査によるマイクロデータと中国統計年鑑（各年版）などのマクロデータに基づいて、就業行動と労働力移動の要因となる所得格差、労働力送り出し地域である吉林省を含む東北地域が「東北振興」戦略実施前後の経済発展の状況を明らかにすることで、東北地域または吉林省の少数民族集住地の新たな要因を提起している。

第2章では、就業行動と労働力移動に関する実証研究の文献を中心に、今までの理論的枠組みを分析した。本章では、主として経済学を基礎にした移動理論とモデルを中心に、新古典派経済学の理論モデルの

枠組みを整理し、中国における大学生就業と民族別労働力移動に関する実証研究で明らかになった就業と移動の決定要因について包括的に検討を行っている。

第3章では、中国の大学新卒者が増加するとともに、大卒の就職問題は益々人々の注目することとなっている状況を背景に、中国の地方大学の大学生の2002年と2007年の就職意識のアンケート調査に基づいて、地方大学生の就職内定率と就職内定者の初任給の決定要因を明らかにしている。分析結果から、就業内定率の決定要因として、専攻、希望勤務年数、就職するための使用金額が、就職内定者の初任給の決定要因として、専攻、民族、性別、希望勤務年数が重要な影響を与えていることを示した。次に、地方大学生の他地域への就業(国外への就業も含む)の傾向が強いことを示した。最後に、2002年に比べて、2007年の大学新卒者の希望賃金はより現実的になっているが、希望賃金と市場賃金との間にはいまだに差が大きいことを示した。

第4章では、高学歴者に対する戸籍制度と大学新卒に対する雇用制度の改革が行われ、高学歴者の省間移動が制度的に可能になったことを背景に、2007年の大学新卒者の就職先に関するアンケート調査の個票データを用いて、地方大学新卒者の省間移動のメカニズムを考察し、大学新卒者の就業行動が民族の影響を強く受けていることを示した。

第5章では、中国の改革・開放政策と戸籍制度の緩和による農村から都市への大規模な労働力移動を背景に、2008年の吉林省の農村世帯主労働力移動に関するアンケート調査を用いて、世帯主の労働力移動と農家の1人当たり所得の決定要因を明らかにしている。分析結果から、民族別の移動パターンには大きな相違性が現れている一方、吉林省農村部の世帯主移動の決定要因として、所得格差、民族、地域、年齢階層が、農家の1人当たりの所得の決定要因として、民族、婚姻状況、ネットワークの有無が統計的に有意な影響を与えていることを明らかにした。

第6章では、所得格差および地域間格差の拡大による内陸地域から所得水準がより高い沿海地域への大規模な労働力移動を背景に、2009年の吉林省の都市部労働力の地域間移動に関するアンケート調査からの個票データを用いて、その地域間労働力移動を計量的に分析している。分析結果から、農村と同じように、都市部の民族別移動パターンにも大きな相違性があることを明らかにした。吉林省の少数民族(ここでは、朝鮮族と満州族)は、移動する確率が高く、その移動先の地理的分布も特定の地域に集中していることを明らかにしている。都市部の労働力移動の決定要因として、民族、年齢、婚姻状況ダミー、家族の送金、友人・親族のネットワークが統計的に有意な影響を与えることを明らかにした。希望賃金格差、家族の送金と友人・親族のネットワークは、移動に統計的に有意な影響を与える一方、民族によってその影響が異なることを明らかにした。

第7章では、中国人口センサス資料などのマクロデータから、国際労働力移動と労働者送金の規模と実態を明らかにした上で、2009年の国際労働力移動と国際送金に関するアンケート調査を用いて、国際労働力移動と送金または送金額のメカニズムを計量的に分析している。国内労働力移動と比べて、国際労働力移動の場合、移動先の政治・政策状況に強く規定される。分析結果から、国内労働力移動に比べて、国際労働力移動の場合、希望賃金格差だけでなく、民族の影響を受けることを明らかにした。そして、各民族にとって、国際労働力移動をするか国内労働力移動をするかは、希望賃金格差と民族の要素以外に、年齢、移動経験と移動元の就職状況に大きく関係している。国際送金と送金額の決定要因として、移動費用だけでなく、個人属性である性別、婚姻状況、戸籍、そして人的資本の指標である教育年数と出稼ぎ年数、移動先の社会保険への加入が統計的に有意な影響を与える。ただし、民族は、送金または送金額には統計的に有意な影響を与えないことを明らかにした。

終章では、第1章から第7章までの考察内容と分析成果を要約し、本論文から得られた研究成果を基に、政策面についての含意を示し、筆者の今後の研究課題を指摘して本論文を締めくくっている。

## 論文審査結果の要旨

中国では、経済改革・開放政策の下、高い経済成長率を達成し、それにともない労働市場も大きく変化してきた。現在、中国では、都市部の失業問題、特に大学新卒の失業問題、また農村部から都市部へ移動する「農民工」（農民労働者）の問題が重要な課題として考えられている。また、地域間所得格差も重要な課題と考えられている。本論文は、そのような労働市場を考慮し、中国の大学生（地方大学生、大学新卒者等）の就業行動、農村部の労働力、特に吉林省の民族（漢族、朝鮮族、満州族）に焦点を当てている。本論文の目的は、中国の大学生、都市部に移動する農村労働者について、地域、民族を考慮し、就業行動と労働力移動を計量的に分析し、中国の国際労働力移動、送金を計量的に分析し、それらのメカニズムを解明することであり、中国が直面している労働市場の重要な課題の理解の一助となることである。

本論文の主な評価として以下の5点が挙げられる。

- ①中国で行われてきた労働力移動に関する研究は、主に受け入れ先の視点からの研究であるが、本論文は送り出し地域の視点から分析している。本論文では、送り出し地域としての中国東北地域の吉林省に焦点を当て、省内、省間、海外への労働力移動を分析している。
- ②中国の労働市場に関する実証研究で個票データを用いる機会は、限られている。本論文の実証研究（第3章、第4章、第5章、第6章、第7章）では、筆者は独自に、大卒者の就業行動、農村から都市への労働力移動、国際労働力移動と国際送金を調査目的とし、吉林省の延辺大学4年生・新卒者、吉林省の農村世帯主と都市部住民を対象とする4回のアンケート調査を実施し、個票を収集し、それらのデータを用いて数量的に分析している。
- ③中国では、労働市場や労働力移動に関する研究は多くあるが、民族（本論文では、吉林省の漢族、朝鮮族、満州族）の視点からの研究は稀で、本論文の研究から、民族が大学新卒者の就業行動と省間労働力移動に影響を与え、労働力移動に関して吉林省朝鮮族の特徴を明らかにした。具体的には、吉林省の漢族は省内移動が主であるが、朝鮮族は省外と海外への移動が主であり、朝鮮族の労働力移動の決定要因として、友人・親族のネットワークが重要であることを示した。
- ④中国における大学生の就業活動に関して、これまで行われていなかった大都市である北京にある大学と吉林省の地方大学との比較を行い、大学生の就業活動の比較分析を行った。吉林省の地方大学生の場合、他地域への就業（国外への就業も含む）の可能性が高く、特に、北京、上海など東部沿海地域に集中していることを明らかにした。
- ⑤中国では、国際労働移動に関しての研究は多くはなく、特に送金を対象にした研究は稀である。本論文の第7章で、吉林省の国際労働力移動と送金について実証分析をし、民族が国際労働力移動に影響を与え、その決定要因を明らかにした。ただし、民族は、送金や送金額への影響は統計的に有意でないことを示した。

他方、本論文はいくつかの問題点も含む。改善すべき点は次のとおりである。

- ①本論文で分析している民族は、中国全体の少数民族全体ではなく、主に吉林省朝鮮族である。朝鮮族の特徴として、韓国や韓国企業が存在がある。韓国や韓国企業が存在が与えられたとして、同じ朝鮮族の中でどのような人が国内・国際移動したのか、漢族との移動との違いがどのように異なるかの分析が、今後の課題である。
- ②適用されたモデルの適用可能性について、中国固有の問題、具体的には戸籍の問題など労働者の移動障壁の有無とそのモデルでの考慮が十分でない面があり、今後改善すべきである。
- ③様々な仮説の検証を行っているが、仮説を提起する場合に理論的根拠を十分に踏まえていない面があ

り、仮説の提起の方法をより工夫すべきである。

- ④実証研究に用いたデータの問題として、アンケート調査の制約から質的変数が多く、今後、数量的変数をも用いることにより、より説明力のある実証研究ができる。
- ⑤労働力移動の研究の視点として、移動元のみに焦点を当てているが、移動先の労働市場の状況の分析に十分に反映できていない。

このように今後改善すべき残された問題もあるが、本論文を総合的に判断すれば、中国の労働市場について、労働力移動の移動元、民族の視点から分析し、吉林省朝鮮族の特徴を明らかにし、自ら複数のアンケート調査を実施し、それらの調査にもとづき、中国における大学生の就業行動、民族別労働力移動を分析し、様々な独自の発見をしているなど多くの優れた研究成果を上げており、学会に貢献するところ大である、と評価できる。

以上の審査結果にもとづき、当審査委員会は博士学位請求論文の提出者韓美蘭氏が博士（経済学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定する。